

令和7年度 第2回山形市救急救命業務検証会議 次第

日時：令和8年3月26日（木）
午後1時30分～午後3時まで
場所：山形市総合福祉センター
2階交流ホール
進行：通信指令課 総括主幹

1 開会

2 市長あいさつ

3 出席者紹介

4 座長選出

5 検証

(1) 心肺停止傷病者の社会復帰率向上を目指した取組

「High-performance CPR」の取組状況について

(救急救命課)・・・会議資料1-1

会議資料1-2

(2) 通信指令員の救急に係る研修への取組

「研修体制の強化」について

(通信指令課)・・・会議資料2

6 次回の会議等について

7 閉会

令和7年度 第2回山形市救急救命業務検証会議出席者名簿

1 会議構成員

(五十音順 敬称略)

	氏名	所属等	分野	出欠
1	かなや とおる 金谷 透	山形市医師会 会長	医療関係者 (救急救命に精通)	出席
2	こせき ひろゆき 小関 裕之	山形新聞社 総務編集兼報道部長	報道関係者	出席
3	ごとう みちこ 後藤 道子	山形県看護協会 常任理事	医療関係者	出席
4	ながはま としのぶ 長濱 俊伸	仙台市消防局 警防部 指令課長	消防関係者 (通信指令に精通)	欠席
5	のぐち ひろみ 野口 比呂美	やまがた育児サークルランド 代表	市民代表	出席
6	ひろべ きみこ 廣部 公子	元山形市女性団体連絡協議会 副会長	市民代表 あり方検討会委員	欠席
7	ふじさわ むつお 藤澤 睦夫	山形市老人クラブ連合会 会長	市民代表	出席
8	ほそや まきこ 細谷 真紀子	応急手当指導員	市民代表	欠席
9	もりの かずま 森野 一真	山形県立河北病院 救急科	医療関係者 (救急救命に精通) あり方検討会委員	出席
10	わたなべ えいいち 渡辺 英一	山形市自主防災組織連絡協議会 会長	市民代表	出席

2 山形市

- ・ 市長 佐藤 孝弘
- ・ 救急救命課長 後藤 裕
- ・ 通信指令課長 高瀬 治
- ・ 救急救命課総括主幹 志田 健二
- ・ 通信指令課総括主幹 海野 裕二
- ・ 通信指令課長補佐 中川 清

心肺停止傷病者の社会復帰率向上を目指した取組み
「High-performance CPR」の取組み状況について

(救急救命課)

1 令和7年度の取組み状況

令和7年度は、各救急隊のデータ収集を行うとともに、「指導救命士による業務中に実施する指導＝オンザジョブトレーニング(以下「OJT」という。)」 「外部講師によるシミュレーション訓練」「救急隊別効果測定」を計画した。

(1) OJTによる個別指導

山形市消防本部では、指導救命士が各署所の救急車に同乗し、実際の現場活動の評価も含めた教育指導を行っている。この教育カリキュラムにおいて、令和7年度は High-Performance CPR(以下「HP-CPR」と表記する。)の概念と現場での実践について一人ひとりに合わせた教育を行った。

指導救命士3名が分担し、全9隊(1、2部交代制につき、全18隊)に個別の指導を行うため、計41回の救急車同乗教育を行った。心肺停止傷病者に対応した際のデータを集計・分析し、部隊毎の特徴(強みや弱み等)を捉えることで、救急現場活動に繋がるフィードバックを行った。

<写真1 指導救命士による指導>



(2) 外部講師によるシミュレーション訓練

令和7年10月17日、済生会宇都宮病院 救急・集中治療科 栃木県救命救急センターの藤田健亮医師※を招聘し、心原性心肺停止傷病者を想定したシミュレーション訓練を行った。

訓練に先立ち、藤田医師による講演を行い、88名の救急隊員がHP-CPRの概念や理論、現場での実践方法について学んだ。その後の救急隊2隊によるシミュレーション訓練では、狭隘な場所での一連の救急現場活動を行い、特に心肺蘇生の質が低下しやすい場面での対処方法などについて、データを基に評価しながら具体的な指導を受けた。

<写真2 講義の様子>



※(写真中央)藤田 健亮 医師

宇都宮市をはじめとした人口約 100 万人を擁する医療圏において三次救急医療の要となる栃木県救命救急センターで勤務されており、メディカルコントロール活動に積極的に携わっている。GRA JAPAN chapter の委員として救命率向上のため尽力されており、先進的に HP-CPR を実践し、その効果を提唱されている。

<写真3 シミュレーション訓練の様子>



※ 一般住宅には狭い場所も多いため、あえて狭いスペースを設定し難易度を上げている。

(3) 救急隊別効果測定

令和8年3月16日(月)から3月19日(木)にかけて、全ての救急隊の効果測定を実施した。

訓練では、胸骨圧迫比、初回薬剤投与までの時間等を計測、評価したほか、各隊による現場対応の工夫などを共有した。

2 取組み目標、データの集計結果について

当初設定した指標は以下のとおり。

(1) 活動指標(アウトプット)

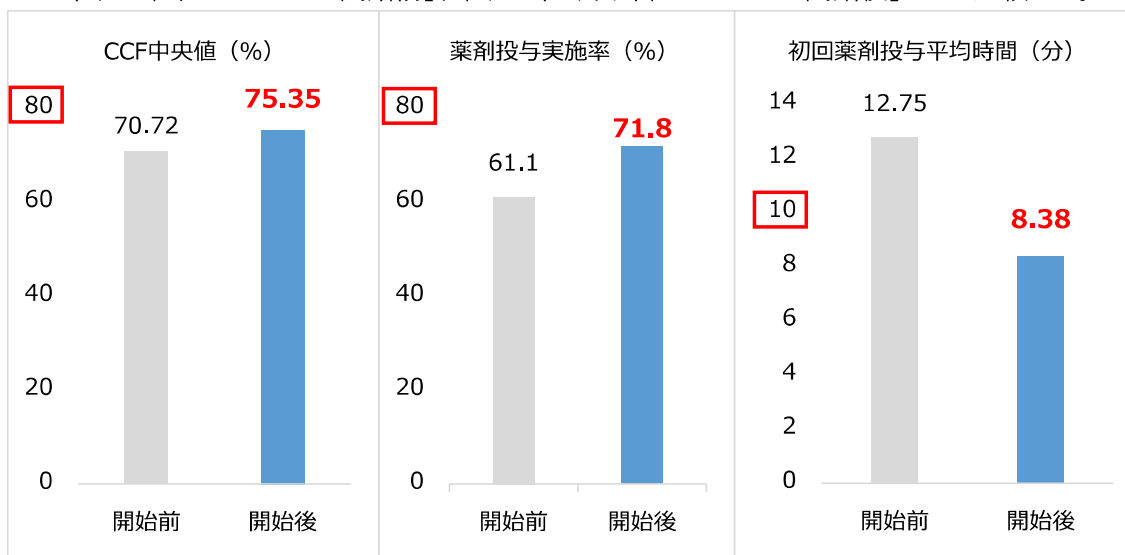
項目	目標値	備考
胸骨圧迫比(CCF)	80%以上	活動中に胸骨圧迫をどれだけ継続できているか
薬剤投与実施率	80%以上	心肺停止患者にアドレナリンを投与できているか
初回薬剤投与までの時間	10分以内	現場到着後に素早くアドレナリンを投与できているか

(2) 成果指標(アウトカム)

項目	目標値	備考
一般市民の目撃のある心原性心肺停止患者の1カ月後社会復帰率	25.0%以上	一般市民が目撃した、心臓に原因があり心肺停止になった患者のうち、どれだけ多くの方が社会復帰したか

(3) データ集計結果

令和6年中のデータを「開始前」、令和7年7月以降のデータを「開始後」として比較した。

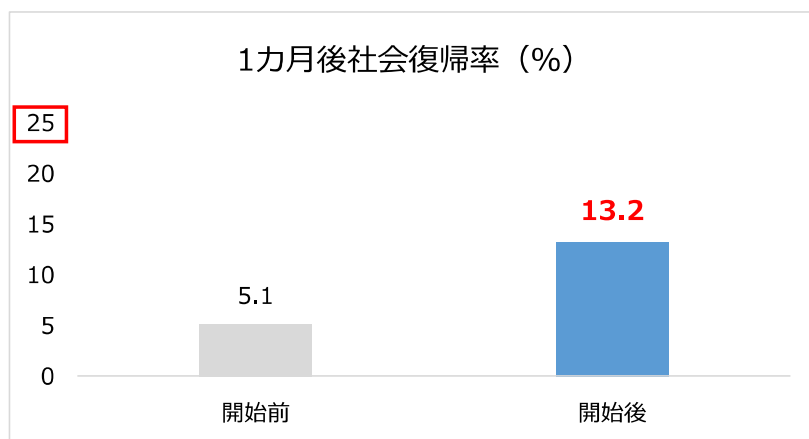


① CCFの中央値は、70.72%から75.35%と、4.63ポイントの上昇となった。

※ 開始前データは、令和6年中の事案のうち、センサー付き除細動パッドを使用した5症例となる。

② 薬剤投与実施率は、61.1%から71.8%と10.7ポイントの上昇となった。

③ 初回薬剤投与までの時間は、12.75分から8.38分と4.37分の短縮となった。



④ 1カ月後社会復帰率は、5.1%から13.2%と、8.1ポイントの上昇となった。

通年で教育を継続することにより救急隊員の意識が高まり、設定した全ての指標で改善がみられた。初回薬剤投与までの時間については目標を達成しているが、更なる短縮が期待できる。全ての項目で目標を達成できるよう、引き続き取り組んでいく。

3 令和8年度の予定

令和8年度は、救急隊員への継続した教育のほか、心肺停止事案で連携する消防隊に対する教育も行っていく。

High Performance-CPR年間スケジュール

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
データ収集	■											
京都大学とのミーティング			○			○			○			○
各学会などによる知識のアップデート			★東北救急医学会 ★日本臨床救急医学会				★日本救急医学会		★関東蘇生アカデミー ★大阪蘇生アカデミー			★全国救急隊員シンポジウム
救急隊の教育 (OJT)		■										
指導者育成	■											
HP-CPRコース開催								○				
消防隊の教育			■									
PA連携効果確認												○

(1) データ分析や研究等、エビデンスに基づく知識のアップデート(緑)

心肺停止事案のデータ分析によるフィードバック(振り返り)は継続して行うとともに、各学会等で発表される最新の知識を取り込み、救急隊員教育に落とし込んでいく。

(2) 救急隊の教育(赤)

個人の技術向上と救急現場における隊員連携に重点を置き OJT を行っていく。また、HP-CPR の指導者を育成し、本部内での HP-CPR コース開催を目指す。

(3) 消防隊の教育(青)

心肺停止事案には消防隊が連携出動する体制をとっているため、令和8年度は消防隊を対象にした HP-CPR の教育を行い、現場で救急隊との連携強化に繋げる。

本市における応急手当講習会の開催状況等について（報告）

（救急救命課）

1 過去5年間の各種応急手当講習会開催状況

	令和3年		令和4年		令和5年		令和6年		令和7年		前年比	
	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数
指導員講習	3	20	3	21	5	30	7	32	3	34	▲ 4	2
指導員再講習	6	25			5	37	2	13	2	11		▲ 2
普及員講習	3	40	2	22	4	26	6	32	2	35	▲ 4	3
普及員再講習	4	23			4	15	3	8	2	10	▲ 1	2
上級救命講習	4	98	1	39	6	150	3	107	4	125	1	18
普通救命講習Ⅰ	42	666	43	709	62	1,224	57	1,106	61	1,256	4	150
普通救命講習Ⅱ	2	39	2	40	4	75	5	87	2	75	▲ 3	▲ 12
普通救命講習Ⅲ	8	111	8	85	11	172	16	197	18	260	2	63
救命入門コース	49	999	67	1,263	113	2,443	186	4,300	194	4,440	8	140
普通救命講習Ⅰ ステップアップ					1	1						
上級救命講習 ステップアップ	2	36	1	12	2	31	2	38	1	28	▲ 1	▲ 10
その他	7	23	1	3	3	18	2	4	6	14	4	10
合 計	130	2,080	128	2,194	220	4,222	289	5,924	295	6,288	6	364

2 過去5年間のバイスタンダーによる応急手当実施状況

		令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	前年比
心肺停止傷病者数		251	330	286	285	290	5
バイスタンダーによる 応急手当実施傷病者数		168	235	197	194	198	4
応急手当実施率（％）		66.9	71.2	68.9	68.1	68.3	0.2
応急手当 の内容	胸骨圧迫	168	223	197	194	198	4
	人工呼吸	12	14	14	9	6	▲ 3
	AEDによる 除細動	4	1	5	3	4	1

通信指令員の救急に係る研修への取組 「研修体制の強化」について

1 検証内容

山形市消防本部通信指令課では「指令業務五つの課題への取組み」を掲げて業務に取り組んでいる。今回はその中の一つである、通信指令員の救急に係る研修への取組みとして、「研修体制の強化」について検証する。

山形市消防本部通信指令課 指令業務五つの課題への取組

- 1 指令時間の迅速化
- 2 119 番通報受付要領の統一
- 3 出動地点と災害種別の決定
- 4 通報者への口頭指導の統一
- 5 研修体制の強化

2 概要

通信指令員の教育研修については、「山形市消防本部通信指令課通信業務研修カリキュラム」に基づき、基礎知識から実務研修、非常時対応、各種機器システム取扱いなど、通信指令員に必要な知識と技術を習得し、円滑な通信指令業務の遂行を図ることを目的としている。

救急に関しては、平成 29 年度から「山形市救急救命業務あり方検討会」の助言を踏まえ、他市消防機関への指令課視察研修や、通信指令員の救急に係る教育等を年間計画をとおり、教育研修体制の強化を図っている。

3 通信指令員の構成

1 部・2 部の 24 時間勤務の 2 交代制の各部 7 名で勤務。

通信指令員全員が救急隊員有資格者で、救急救命士が在籍している。

4 現状の救急に係る研修

(1) 1 部・2 部の勤務交代時のミーティング

勤務日に受信した重症事案、特異事案等の情報共有及び検証をしている。(適宜)

(2) 通信指令員の救急に係る研修会(課内)

年間計画をとおり、毎月救急救命士が講師となり行っている。

内容

ア 座 学 解剖生理、心停止に至る病態、口頭指導対象病態

イ 実 技 救急要請(119 番通報)受信対応のシミュレーション訓練

ウ 検証会 過去の救急に係る 119 番通報の録音データを利用した通信指令員の口頭指導の検証

(3) 山形県救急業務高度化推進協議会教育指導ワーキンググループ主催の研修会(県内)

ア 通信指令業務に関する教育研修会

座学 口頭指導プロトコル・コミュニケーションスキル

実技 救急要請(119番通報)受信対応のシミュレーション訓練

イ 録音データを利用した通信指令員の口頭指導内容検証会

実際の119番通報を聞き、各グループごとで検証する。

※ 県主催の研修会は、県内各消防本部の参加人数受講枠が決められているため、全通信指令員は受講できず。

5 今年度の研修で行った新たな取り組み

(1) 課内研修会に指導救命士の参加を依頼した。

令和7年4月1日より山形市消防本部指導救命士運用要綱が施行された。

第3条(4)に指導救命士は担当する救急救命士への指示指導及び助言(主任救急救命士、通信指令課の救急救命士)に基づき、今年度は「過去の救急に係る119番通報の録音データを活用した通信指令員の口頭指導の検証」に参加を依頼し、様々な助言、指導を行った。

(2) 慌てている又は興奮状態の通報者への対処方法の検討会を行った。

119番通報時、通報者の中には強い不安感や恐怖、興奮状態にある人がおり、情報を正確に聞き取ることが困難な場合がある。

場所の特定、傷病者情報の把握に時間を要し、出動指令の遅延、救急隊への支援情報の不足、口頭指導が出来ない等につながる。そこで、情報聴取の前提条件として通報者の心理状態を早期に安定させることに着目した。

※ 以上、上記(1)・(2)について、研修体制の強化を図っている。